

総務文教常任委員会記録

令和4年6月9日

【開催日】 令和4年6月9日（木）

【開催場所】 第1委員会室

【開会・散会時間】 午後1時33分～午後2時15分

【出席委員】

委員長	長谷川 知 司	副委員長	宮 本 政 志
委員	伊 場 勇	委員	岡 山 明
委員	笹 木 慶 之	委員	古 豊 和 恵
委員	前 田 浩 司		

【欠席委員】

なし

【委員外出席議員等】

議長	高 松 秀 樹		
----	---------	--	--

【執行部出席者】

なし

【事務局出席者】

事務局次長	島 津 克 則	庶務調査係長	田 中 洋 子
-------	---------	--------	---------

【審査内容】

- 1 陳情書（教育委員中村眞也氏の中立性を欠く言動についての調査及び対応について）

午後1時33分 開会

長谷川知司委員長 ただいまから総務文教常任委員会を開催いたします。本日の審査内容は、陳情書、教育委員中村眞也氏の中立性を欠く言動についての調査及び対応についてであります。これにつきましては、2月10日に、陳情者、伊藤實氏が議会に陳情書を提出され、教育長に3回、また、参考人として中村眞也氏にも1回来ていただきまして、いろいろ事実確認をさせていただきました。皆様方からの意見も十分出たと思いますが、ここで、今までの経過と事実確認を、私のメモを基に確認いたし

ますので、皆様も同じように、共通認識を持っていただきたいと思います。もし、間違い等あれば、遠慮なく申してください。最初にこのことは、1月11日に、教育委員会の教育長が署名活動に中村委員の名前があることを知ったということでもあります。1月13日に教育長が、中村眞也氏からいきさつを聞いたと。そのときに教育長から、個人の価値観で他に働きかけることは、公人である私たちが留意すべき事案であると。教育委員としての自覚を持つように、中村氏に話をしたということです。1月27日に、教育委員会議の前に、全ての委員に、天文館、青年の家研修棟の今後について説明されたということでもあります。2月8日、臨時教育委員会会議で、伊藤實氏が出されようとしている要請文の内容を他の委員に話し、他の委員から事前に意見を聞いたということでもあります。そのときは、教育委員としての立場を有する者が、署名運動の発起人として名を連ね、特定の主張を展開することは望ましいとは言えない旨の意見が出されたということです。そして、2月10日に、伊藤實氏が正式に要請文を教育委員会へ提出、同日、市議会にも伊藤實氏が陳情書を提出しております。その後、中村眞也氏から埴生地区ふるさとづくり協議会会長を辞任したという報告が教育長にあったということです。3月17日、報告事項として、総務文教常任委員会での内容を、教育委員会議で報告したということでもあります。他の教育委員への謝罪の有無、なぜ教育委員を辞任せず、埴生地区ふるさとづくり協議会会長を辞任したのか。中村氏から教育委員であるという肩書を持ちながらの署名活動は、疑義を生むことから、ふるさとづくり協議会会長の職を両立することが難しいと判断したために、ふるさとづくり協議会会長を辞任したと報告があったということです。そのとき、総務文教常任委員会の中で出た質問としては、まず中村眞也氏が他の教育委員への謝罪をしたのかどうか、それが一つ。次に、なぜ教育委員を辞職せず、埴生地区ふるさとづくり推進協議会会長を辞任したのかということなどが出されております。この2点を含め、4月27日に教育長出席の下、総務文教常任委員会を開催いたしました。これにつきましては、3月17日に教育委員会議をされておりますので、それを受けての質疑応答も含んでおります。

4月27日は、教育長から、中村氏以外の教育委員から、署名運動に教育委員としての立場を有する者が発起人として名を連ね、特定の主張を展開することは、教育委員として望ましくないという意見があった。それを受けて中村氏から謝罪があったと、教育長から報告がありました。また教育長の立場として、公的な立場にある者が特定の考えを働きかけたことについては、望ましい行為だとは思わないと、中村氏に伝えております。その後、5月12日、参考人として、中村眞也氏出席の下、総務文教常任委員会を開催いたしております。中村参考人からは、政治的中立性に関する認識の甘さは確かにあった。市、市民を代表する議員に迷惑を掛けたことに対して、誠に遺憾、謝罪を申し上げたい。学校と地域が連携活動する中で、子供たちの成長と地域を元気にしていく役割が、教育委員の私に負託されていると、そのように中村参考人が述べられました。5月20日、再度、教育長出席の下、総務文教常任委員会を開催し、5月19日に、要するに前日ですね、5月19日に開催された教育委員会会議を受けての質疑応答を行っております。教育長から、今回の件について、総務文教常任委員会には多大な御苦勞と御心痛をお掛けし、おわび申し上げたいと発言がありました。5月19日の教育委員会会議で、再度、この件を協議したので報告したいということです。中村氏から、5月12日での総務文教常任委員会での市民、市民の代表の議会に迷惑を掛けたこと、遺憾であり、深く反省し謝罪したとの報告がありました。また、教育長をはじめ、教育委員、教育委員会事務局に大変迷惑を掛けたことを謝罪しますと、同じように、中村氏が謝罪しております。また、他の教育委員1人ずつから意見を聞き、今回の事案は、教育委員としては不適當な行動であるとの結論になった。教育長としても、市民の皆さんに深くおわびを申し上げるとの発言もあり、今後も政治的中立の指導をしていく必要を感じていると、委員会で述べられております。そして、今日6月9日に至るわけではありますが、その前に、5月19日の定例委員会会議の議事録を確認して、皆様に見ていただいたところでございますが、これは、5月20日に教育長が申した定例会の内容とはそごがないと、ここは私の主観ですが、そごがないということを確認し

ております。皆様方で、今私が申したことで、何か訂正や付け加えがあれば言っていただきたいと思います。３月１７日の教育長出席の下での総務文教常任委員会でのところで、一つ、私が落としておりますので、これについて、発言された伊場委員から報告をしていただけますか。お願いします。

伊場勇委員　３月１７日に、私から教育長に、陳情者から今回の署名活動以外での中村委員の行動についてもいろんな声を聞いているというふうにお聞きしましたので、その旨を教育長に、このこと以外についてはどのように把握されているかとお聞きしました。すると、教育委員会ではそういったことの情報は入ってきていないと、把握をしていないという旨の答弁がありましたので、このことについても陳情者へ回答として、報告をすべきではないかというふうに思っております。

長谷川知司委員長　今私が口頭で述べましたので、皆様方も頭の整理にちょっと時間が掛かるかなと思いますが。

伊場勇委員　初め、この件について教育長をお呼びしたときには、謝罪の言葉がなかったということなんですけども、委員からいろいろ指摘も受けて、結局、５月２０日には、教育長から市民に対して、お言葉を頂いたので、そのことも時系列のときに反映した回答文になったらいいかなというふうに思っております。

長谷川知司委員長　そうですね。中村参考人だけでなく、教育長からも謝罪があったということですね。

宮本政志副委員長　そうすると、先ほど伊場委員がそのほかのことについて、陳情者に返す報告に盛り込んだらいいと思うんですがということをはかの委員の方がどう思われるかということについて、私は伊場委員と同じく、陳情者は陳情書とは別のことを確かに触れましたが、その件につい

ては、総務文教常任委員会として伊場委員が質疑して答弁を得ておりますので、報告内容に入れるべきであると。伊場委員と同じでございます。

長谷川知司委員長　ここで、ちょっと皆さん意見をまとめるために、自分の中で整理するために、暫時休憩しましょう。暫時休憩します。

午後 1 時 4 8 分　休憩

午後 2 時 1 0 分　再開

長谷川知司委員長　では、休憩を解きまして総務文教常任委員会を再開いたします。先ほど、私から時系列な報告をさせていただき、皆様方からも意見を頂きました。また、様々な議事録も皆様方この休憩中にも読まれて確認されたと思います。何か、私の時系列や進め方、あるいは、今後の方向性について、皆様方から意見があればお聞きします。

笹木慶之委員　5月20日の委員会の中でも少し申し上げておきましたが、議会として、教育委員の対応をしっかりとチェックするという事で、そのチェックについては、委員長から報告がありました。それに付け加えて、今後の適正な教育行政の推進となるというテーマが実はあります。調査したこと自体は、それはそれとして意味があることですが、しかし、未来、将来につながるものにはなってない。ところが、5月20日の委員会の中で、教育長は、それまで5月19日までの経緯について、自分としての意見をまとめられ、19日の教育委員会で、教育委員に対して、現状の考え方、さらには将来にわたる教育委員としての取組の方向性、任務等々について、きちんと整理をされて教育委員に訓示のような発言をされたということを聞きました。その内容を加えれば、教育委員会としての将来性が見えてくるというふうに思います。それがちょっと漏れているようですから、それを入れたらどうでしょうか。

長谷川知司委員長 よろしいですか、今の件は。（「はい」と呼ぶ者あり）

伊場勇委員 そのような形でいいと思います。それに加えて、適正な教育行政の推進をチェックしていくのは、主にこの総務文教常任委員会なので、総務文教常任委員会としての見解も踏まえて、回答に入れるべきかなと思います。

笹木慶之委員 伊場委員が言われたとおり、我々が審議をしてきたのは、今後の教育行政がいかにあるべきかということを現場にしっかり伝えながら、また、状況を確認しながら来たわけですが、それがそこまで確認が取れた、ついてはそれを基にして、今後の我々、議会としての教育行政に対する方向性をやはり示すべきだというふうに思います。ということで、細かい部分については、ここでいろいろ議論しても無理な点がありますから、どうでしょうかね、委員長と副委員長でちょっと素案をまとめてもらって、それに基づいて最終的な結論を出したらいかがかと思うんですが、どうでしょうか。

宮本政志副委員長 今の笹木委員の提案はいいと思います。ですから、冒頭、伊場委員から出ました、陳情者がおっしゃった発言に対する調査結果も出ておりますから、それも踏まえた上で、委員長と私でまとめてみると、そういう方向でいいと私は思います。

岡山明委員 教育行政のお話を今されていますが、それは当然そのとおりと思います。この陳情書の下の方5行かに、「補足の意味を含めて申し添えます」という言葉があり、そういう話をされています。中村氏から謝罪が明確に打ち出されているという状況で、今後、同様の疑惑が生じる可能性がある行動については、事前に教育委員会に確認の上、行動するようにしていきたいと、反省を述べていますから、そういう謝罪の部分をしっかり込めるとということで、私は委員長からそういう形の回答を出していただければと思っております。

長谷川知司委員長　ほかにはございませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）では、
今皆様方から言われたことを付け加えまして、私と副委員長で回答案を
作っていきます。そういうことでいいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）
では、本日の総務文教常任委員会を閉会いたします。お疲れ様でした。

午後 2 時 1 5 分　散会

令和 4 年（2022 年）6 月 9 日

総務文教常任委員長　長谷川　知　司